

## 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、そのすべてが解明されているわけではない。
- b 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すれば保健衛生上のリスクが相対的に高いと考えられている。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- d 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法（平成6年法律第85号）の対象である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

### 問2

健康食品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 機能性表示食品は、事業者の責任で科学的根拠をもとに、疾患に罹患した者の健康の回復に役立つ効能・効果を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品である。
- b 栄養機能食品は、国が定めた規格基準に適合したものであれば、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の健康機能を表示することができる。
- c 特定保健用食品は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むものであり、特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関して、国への届出が必要である。
- d いわゆる健康食品は、その多くが摂取しやすいように錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状で販売されており、こうした健康食品においても、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じた例が報告されている。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

### 問3

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。
- b 医薬品は、少量の投与であれば発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じることはない。
- c 医薬品は、治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「最小致死量」となり、「中毒量」を経て、「致死量」に至る。
- d 製造販売後の調査及び試験の実施の基準として Good Post-marketing Study Practice (G P S P) と製造販売後安全管理の基準として Good Vigilance Practice (G V P) が制定されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

### 問4

セルフメディケーションに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 急速に少子高齢化が進む中、持続可能な医療制度の構築に向け、医療費の増加やその国民の負担増大を解決し、健康寿命を延ばすことが日本の大きな課題であり、セルフメディケーションの推進は、その課題を解決する重要な活動のひとつである。
- 2 セルフメディケーションを的確に推進するうえで、一般用医薬品の販売等を行う登録販売者は、薬剤師や医師、看護師など地域医療を支える医療スタッフあるいは行政などとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進、生活の質（QOL）の改善・向上などに携わることが望まれる。
- 3 少子高齢化の進む社会では、地域包括ケアシステムなどに代表されるように、自分、家族、近隣住民、専門家、行政など全ての人たちで協力して個々の住民の健康を維持・増進していくことが求められ、登録販売者は、その中でも重要な情報提供者である。
- 4 平成29年1月からは、適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、全てのスイッチOTC医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入されている。

問5

アレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギーと遺伝的要素は関連がない。
- b アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであり、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得る。
- c アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となり得る添加物として、黄色4号（タートラジン）、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム等）等が知られている。
- d 過去に医薬品でアレルギーを起こしたことがない人であれば、病気等に対する抵抗力が低下している場合であっても、医薬品でアレルギーを生じることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問6

副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用とは、日常生活に支障を来す程度の重大でまれに見られる症状をいい、眠気や口渇等の比較的好く見られる症状は含まない。
- b 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することにより、副作用の種類に応じて速やかに適切に処置し、又は対応し、重篤化の回避が図られることが重要である。
- c 副作用は、明確な自覚症状として現れ、容易に異変を自覚できるものばかりである。
- d 登録販売者は、購入者等から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報提供を行うほか、副作用の状況次第では、購入者等に対して、速やかに適切な医療機関を受診するよう勧奨する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

## 問7

医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、その使用を判断する主体が一般の生活者であることから、その適正な使用を図っていく上で、販売時における専門家の関与が特に重要である。
- b 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって、副作用につながる可能性がある。
- c 症状の原因となっている疾病の根本的な治療や生活習慣の改善等がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けていても、副作用を招く危険性が増すことはない。
- d 医薬品の情報提供は、使用する人に誤認が生じないよう専門用語を正確に用い、相手の理解力や医薬品を使用する状況によって表現を変えることのないよう注意して行う。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

## 問8

医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品には、習慣性・依存性がある成分が含まれているものはない。
- 2 登録販売者は、一般用医薬品を必要以上に大量購入しようとする者であっても、希望どおりに販売する必要がある。
- 3 医薬品をみだりに酒類（アルコール）と一緒に摂取するといった乱用がなされると、急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- 4 小児の用量が設定されていない医薬品であっても、小児に成人の用量の半分以下を服用させれば、副作用につながる危険性はない。

問9

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の相互作用とは、複数の医薬品を併用した場合に、医薬品の作用が増強することをいい、作用が減弱する場合には、相互作用とはいわない。
- b 食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在する場合があります、それらを含む医薬品と食品と一緒に服用すると過剰摂取となるものがある。
- c 外用薬は、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。
- d 医薬品の相互作用は、医薬品が吸収される過程で起こることはあるが、排泄される過程で起こることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問10

小児等と医薬品に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 小児は、大人に比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- 2 小児は、一般的に腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の排泄が大人よりも速い。
- 3 小児は、一般的に血液脳関門が未発達であるため、循環血液中の医薬品の成分が脳に達しやすい。
- 4 乳幼児は、医薬品が喉につかえると、大事に至らなくても咳き込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から医薬品の服用に対する拒否意識を生じることがある。

問 11

高齢者と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）では、おおよその目安として、65歳以上を高齢者としている。
- b 一般用医薬品の使用によって、基礎疾患の症状が悪化することはない。
- c 添付文書や製品表示の文字は、高齢者でも読み取ることが容易であることから、情報提供の際に特段の配慮は必要ない。
- d 高齢者では、医薬品の飲み忘れを起ししやすい傾向があり、家族や周囲の人の理解や協力といった配慮が重要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 12

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、薬理作用が増大されて生じる作用のことをプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもある。
- c プラセボ効果は、確実であり、この効果を目的として登録販売者が医薬品の使用を勧めるべきである。
- d プラセボ効果は、条件付けによる生体反応が関与して生じることがある。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

問 13

妊婦又は母乳を与える女性（授乳婦）と医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊婦が一般用医薬品を使用しようとする場合は、一般用医薬品による対処が適切かどうか慎重に考慮するべきである。
- b 一般用医薬品であれば、配合成分やその用量によらず、流産や早産を誘発するおそれはない。
- c 通常の医薬品の使用の範囲であれば、吸収された医薬品の一部がどのように乳汁中に移行し、どのような悪影響があるかすべて解明されている。
- d ビタミンC含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 14

一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の役割は、疾病に伴う症状の改善であるが、生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防は含まれない。
- b 一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人によって変わってくるものであり、乳幼児は、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくることに留意する必要がある。
- c 一般用医薬品にも使用すればドーピングに該当する成分を含んだものがあるため、スポーツ競技者から相談があった場合は、専門知識を有する薬剤師などへの確認が必要である。
- d 生活習慣病に対しては、一般用医薬品の利用が基本であり、運動療法や食事療法は取り入れる必要はない。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 15

一般用医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 全部又は一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は、販売が禁止されている。
- b 医薬品は、高温や光（紫外線）によって品質の劣化を起こしやすいものが多いが、湿度による影響は受けない。
- c 一般用医薬品では、薬局又は店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列をすれば、経時変化による品質の劣化は起きない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 16

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売に従事する専門家は、購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。
- b 登録販売者には、一般用医薬品の購入者等に対して科学的な根拠に基づいた情報提供ではなく、使用経験者の話に基づく主観的な情報提供を行うことが期待されている。
- c 登録販売者は、購入者等の相談に対して、必ずその薬局又は店舗販売業で販売している医薬品で適したものを見つけ出し、販売に結びつけることが重要である。
- d 購入者等が、使う人の体質や症状等にあった製品を事前に調べて選択しているのではなく、宣伝広告や販売価格等に基づいて漠然と選択することがあることにも留意しなければならない。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)



問 17

サリドマイド訴訟に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

サリドマイド訴訟は、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

サリドマイドは、催眠鎮静成分として承認され、その鎮静作用を目的として ( a ) にも配合されたが、副作用として ( b ) を妨げる作用もあった。

サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、世界保健機関 (WHO) 加盟国を中心に ( c ) の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	歯痛薬	血管新生	市販後
2	歯痛薬	女性ホルモン分泌	市販前
3	胃腸薬	女性ホルモン分泌	市販前
4	胃腸薬	女性ホルモン分泌	市販後
5	胃腸薬	血管新生	市販後

問 18

スモン及びスモン訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモン訴訟は、キノホルム製剤を販売した薬局開設者を被告として1971年に提訴された。
- 3 スモン患者に対する施策や救済制度として、重症患者に対しては、介護事業が講じられている。
- 4 キノホルム製剤は、過去に一般用医薬品として販売されていたこともあり、登録販売者として、薬害事件の歴史を十分に理解し、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止の責務の一端を担っているとの認識が必要である。

問 19

H I V (ヒト免疫不全ウイルス) 訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a H I V訴訟は、国及び製薬企業を被告として提訴された。
- b H I V訴訟をきっかけに医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- c H I V訴訟の和解を踏まえ、国は、H I V感染者に対する恒久対策として、エイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備を推進してきた。
- d 血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 20

C J D (クロイツフェルト・ヤコブ病) 訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 C J D訴訟の和解に際して、ウシ乾燥硬膜の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存の措置が講じられるようになった。
- 2 プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にC J Dが発生した。
- 3 C J Dは、細菌でもウイルスでもないタンパク質の一種であるプリオンが原因とされ、このプリオンが脳の組織に感染することで次第に認知症に類似した症状が現れる。
- 4 C J D訴訟を一因として2002年に行われた薬事法改正に伴い、生物由来製品の安全対策強化が図られた。

## 主な医薬品とその作用

### 問21

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インフルエンザ（流行性感冒）は、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- b アルコールは医薬品の成分の吸収や代謝に影響を与えるため、かぜ薬の服用期間中は、飲酒を控える必要がある。
- c 解熱鎮痛成分であるアスピリンを含む一般用医薬品は、15歳未満の小児に対しても安全に使用できる。
- d 去痰<sup>たん</sup>作用を目的として、かぜ薬にジヒドロコデインリン酸塩が配合されている場合があるが、依存性があることに留意する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

### 問22

次のかぜ（感冒）の症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてマオウを含むものはどれか。

- 1 小柴胡湯しょうさいこうとう    2 半夏厚朴湯はんげこうぼくとう    3 葛根湯かつこんとう    4 麦門冬湯ばくもんどうとう    5 香蘇散こうそさん

問 23

かぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその成分を配合する目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	グアイフェネシン	—	炎症による腫れを和らげる。
b	メキタジン	—	痰 <sup>たん</sup> の切れを良くする。
c	アスコルビン酸	—	発熱を鎮め、痛みを和らげる。
d	プソイドエフェドリン塩酸塩	—	鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡げる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問24

プロスタグランジンに関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

プロスタグランジンはホルモンに似た働きをする物質で、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、その痛みの感覚を( a )。また、脳の下部にある体温を調節する部位(温熱中枢)に作用して、体温を通常よりも( b )維持するように調節するほか、炎症の発生にも関与する。

プロスタグランジンの作用が( c )と、胃粘膜障害を起こしやすくなる。

- |   | a     | b  | c     |
|---|-------|----|-------|
| 1 | 弱めている | 高く | 妨げられる |
| 2 | 強めている | 高く | 妨げられる |
| 3 | 強めている | 低く | 妨げられる |
| 4 | 強めている | 高く | 促進される |
| 5 | 弱めている | 低く | 促進される |

問25

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬は、小児の<sup>かん</sup>疳に積極的に用いられる。
- b ブロモバレリル尿素は、胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けるべきである。
- c 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬を服用後は、翌日目が覚めたあとであっても、注意力の低下や寝ぼけ様症状、めまい、倦怠感<sup>けん</sup>を起こすことがある。
- d アリルイソプロピルアセチル尿素を含む催眠鎮静薬の服用時は、飲酒を避ける必要はないが、アルコールが医薬品の効果を妨げることがある。

- a      b      c      d

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |

問 26

第1欄の記述は、不眠等の症状改善を目的とした漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度以上で、精神不安があつて、動悸<sup>き</sup>、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状（動悸<sup>き</sup>、不安、不眠）、神経症、更年期神経症、小児夜なき、便秘に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人、瀉下薬（下剤）を服用している人では、腹痛、激しい腹痛を伴う下痢の副作用が現れやすい等、不向きとされている。また、構成生薬としてダイオウを含む。

第2欄

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 猪苓湯<br><small>ちよれいとう</small>              |
| 2 | 抑肝散<br><small>よくかんさん</small>              |
| 3 | 芍薬甘草湯<br><small>しゃくやくかんざうとう</small>       |
| 4 | 加味帰脾湯<br><small>かみきひとう</small>            |
| 5 | 柴胡加竜骨牡蛎湯<br><small>さいこかりゅうこつぼれいとう</small> |

問 27

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の配合成分とその作用との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- |   | (配合成分)          |   | (作用)  |
|---|-----------------|---|---|
| a | ジメンヒドリナート       | — | 抗ヒスタミン成分であり、延髄にある嘔吐中枢 <sup>おう</sup> への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える。 |
| b | スコポラミン臭化水素酸塩水和物 | — | 局所麻酔成分であり、胃粘膜への麻酔作用に  |

- c ジフェニドール塩酸塩
- よって嘔吐刺激を和らげる。
- 抗めまい成分であり、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）を調節するほか、内耳への血流を改善する。
- d カフェイン
- 鎮静成分であり、乗り物酔いの心理的な要因となる不安や緊張を和らげる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

#### 問 28

鎮咳去痰薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ハンゲは、中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分として配合されている場合がある。
- b チペピジンヒベンズ酸塩は、非麻薬性鎮咳成分と呼ばれ、延髄の咳嗽中枢に作用する。
- c メトキシフェナミン塩酸塩は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- d デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることで去痰作用を示す。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

#### 問 29

呼吸器官に作用する薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 喉の粘膜を刺激から保護する成分として、ポビドンヨードが配合されている場合がある。

- 2 ジプロフィリンは、甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
- 3 口腔内や喉に傷やひどいただれのある人では、細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として、クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬の使用が推奨されている。
- 4 喘息発作は、重積すると生命に関わる呼吸困難につながることもあるため、早期に一般用医薬品の鎮咳去痰薬によって症状を抑える必要がある。

問 30

呼吸器官に作用する漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 麻杏甘石湯は、体力虚弱で、咳が出て、ときにのどが渇くものの咳、小児喘息、気管支喘息、気管支炎、感冒、痔の痛みに用いられ、胃腸の弱い人に適すとされる。
- b 響声破笛丸は、しわがれ声、咽喉不快に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、食欲不振、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- c 甘草湯は、2種類の生薬からなる漢方処方製剤で、激しい咳、咽喉痛、口内炎、しわがれ声に、外用では痔・脱肛の痛みに用いられる。
- d 白虎加人参湯は、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸虚弱で冷え症の人では、食欲不振、胃部不快感等の副作用が現れやすく不向きとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤



### 問 31

胃の薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 セトラキサート塩酸塩は、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じることから、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人では、使用する前にその適否について、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。
- 2 ピレンゼピン塩酸塩は、その抗コリン作用により、排尿困難、動悸、目のかすみの副作用を生じることがある。
- 3 胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤としては、あんちゆうさん にんじんとう りちゆうがん安中散、へい い さん りっくん しとう人参湯（理中丸）、平胃散、六君子湯等があるが、どれも作用が穏やかであるため、改善が見られるまで半年程度継続して服用する必要がある。
- 4 一般用医薬品の胃薬（制酸薬、健胃薬、消化薬）は、一時的な胃の不調に伴う諸症状を緩和する目的で使用されるものであり、慢性的に胸やけや胃部不快感、胃部膨満感等の症状が現れる場合は、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

### 問 32

次の表は、一般用医薬品に含まれている主な有効成分の一覧を示したものである。この医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

3包（成人1日服用量）中

カルニチン塩化物	450mg
チンピ乾燥エキス（チンピ1，200mgより抽出）	150mg
コウボク乾燥エキス（コウボク240mgより抽出）	20mg
チョウジ末	30mg
カンゾウ	150mg
合成ヒドロタルサイト	700mg

- a 消化酵素が配合されているため、胃の内容物の消化が期待できる。
- b カルニチン塩化物は、胃液分泌を促す、胃の運動を高める、胃壁の循環血流を増す等の作用があるとされる。
- c 透析療法を受けている人でも安全に服用できる。
- d 制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている。

1（a、c）      2（b、c）      3（b、d）      4（a、d）

問33

呼吸器官に作用する薬の生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a キョウニン<sup>たん</sup>は、体内で分解されて生じた代謝物による去痰作用と抗菌作用を期待して用いられる。
- b オウヒは、バラ科のヤマザクラ又はカスミザクラの根を基原とする生薬で、鎮咳<sup>がい</sup>作用を期待して用いられる。
- c セキサンは、ヒガンバナ科のヒガンバナ<sup>りん</sup>鱗茎を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d ミルラは、カンラン科のミルラノキ等の植物の皮部の傷口から流出して凝固した樹脂を基原とする生薬で、咽頭粘膜をひきしめる（収斂<sup>れん</sup>）作用のほか、抗菌作用も期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 34

止瀉薬<sup>しや</sup>及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 収斂成分<sup>れん</sup>を主体とする止瀉薬<sup>しや</sup>は、細菌性の下痢や食中毒の時に使用すると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- b タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれるタンパク質（カゼイン）から精製された成分であるため、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- c ロペラミド塩酸塩を含む一般用医薬品は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いられることを目的としており、15歳未満の小児にも適用がある。
- d 天然ケイ酸アルミニウムは、その抗菌作用により、細菌感染を原因とする下痢の症状を鎮めることを目的として配合される。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 35

瀉下薬<sup>しや</sup>の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ヒマシ油は、防虫剤や殺鼠剤などの脂溶性の物質を誤って飲み込んだ際、それらを腸管内からすみやかに体外へ排出することを目的として用いられる。
- 2 マルツエキスは、急激で強い瀉下作用<sup>しや</sup>（峻下作用<sup>しゅん</sup>）を示すため、妊婦や乳幼児への使用は避けることとされている。
- 3 センナ中に存在するセンノシドは、胃や小腸で消化され、分解生成物が小腸を刺激して瀉下作用<sup>しや</sup>をもたらす。
- 4 ジオクチルソジウムスルホサクシネート（D S S）は、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用<sup>しや</sup>を期待して用いられる。

問 36

1～5で示される成分のうち、抗コリン作用により胃腸鎮痛鎮痙<sup>けい</sup>作用を示すものとして誤っているものはどれか。

- 1 ブチルスコポラミン臭化物
- 2 チキジウム臭化物
- 3 ジサイクロミン塩酸塩
- 4 ロートエキス
- 5 オキセサゼイン

問 37

心臓などの器官や血液に作用する薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソは、微量で強い強心作用（心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用）を示す生薬であり、通常用量において悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。
- b 苓桂朮甘湯りょうけいじゆつかんとうには、強心作用の期待されるカンゾウが含まれており、高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人でも安全に使用することができる。
- c ゴオウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して、強心薬に配合されることがある。

a      b      c      d

1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

### 問 38

第1欄の記述は、循環器用薬に含まれる成分に関するものである。該当する成分は第2欄のどれか。

#### 第1欄

肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。

#### 第2欄

- 1 ヘプロニカート
- 2 イノシトールヘキサニコチネート
- 3 ニコチン酸
- 4 ユビデカレノン
- 5 ルチン

### 問 39

高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 大豆油不けん化物（ソイステロール）、リノール酸を含む植物油、パンテチン等を有効成分として含む医薬品の使用により、悪心（吐きけ）、胸やけ、下痢等の副作用が現れることがある。
- 2 パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用があるとされる。
- 3 リボフラビンは、体内で酵素により活性化され、糖質、脂質の生体内代謝に広く関与する。
- 4 リボフラビンの摂取によって尿が黄色になることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。

問 40

貧血用薬（鉄製剤）に配合される金属成分に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（ ）内には同じ字句が入る。

（ a ）は、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸（ a ）が配合されている場合がある。

（ b ）は、ビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸（ b ）が配合されている場合がある。

（ c ）は、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸（ c ）が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	銅	マンガン	コバルト
2	マンガン	コバルト	銅
3	コバルト	マンガン	銅
4	マンガン	銅	コバルト
5	銅	コバルト	マンガン

問 41

内用痔疾用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カルバゾクロムは、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
- b カイカは、主に止血効果を期待して内用痔疾用薬に配合される。
- c セイヨウトチノミは、主に抗炎症作用を期待して内用痔疾用薬に配合される。
- d 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的なものである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤

5 誤 正 正 正

問42

外用痔疾用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ステロイド性抗炎症成分が配合された坐剤及び注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、血管収縮作用による止血効果を期待して配合されるが、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- c ジブカイン塩酸塩は、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを期待して配合される。
- d ベンザルコニウム塩化物は、痔に伴う痛み・痒みを和らげることを期待して配合される。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 43

婦人薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 内服で用いられる婦人薬は、比較的速やかに作用が出現し、短期間の使用で効果が得られるとされる。
- b サフランは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- c 妊娠中の女性ホルモンの補充を目的として、女性ホルモン成分の使用が推奨されている。
- d 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌<sup>がん</sup>や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もあるため、継続して使用する場合には、医療機関を受診するよう促すべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 44

アレルギー用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- b 内服アレルギー用薬は、鼻炎用点鼻薬のような外用薬と同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することがあるが、投与経路が異なるため、併用しても特に問題はない。
- c ベラドンナ総アルカロイドは、交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑える。
- d 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、トラネキサム酸等の抗炎症成分が配合されている場合がある。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)



問 45

鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a フェニレフリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b セチルピリジニウム塩化物は、ヒスタミンの働きを抑える作用を期待して用いられる。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性ではない鼻炎や副鼻腔炎<sup>くう</sup>に対して有効である。
- d くしゃみや鼻汁等の症状を緩和することを目的として、クロルフェニラミンマレイン酸塩等の抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 46

眼科用薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ソフトコンタクトレンズをしたままで点眼をする場合には、防腐剤が配合されている製品を選ぶべきである。
- 2 点眼後は、しばらく眼瞼<sup>けん</sup>（まぶた）を閉じるが、その際、薬液が鼻腔内<sup>くう</sup>へ流れ込むのを防ぐため、目頭を押さえないほうが効果的とされる。
- 3 一般的に、点眼薬の1滴の薬液量は、結膜囊<sup>のう</sup>の容積より少ない。
- 4 点眼薬は、その使用が原因となり、全身性の副作用として、皮膚に発疹<sup>しん</sup>、発赤<sup>かゆ</sup>、痒み等が現れることがある。

問 47

眼科用薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	テトラヒドロゾリン塩酸塩	—	目の充血を除去する。
b	ネオスチグミンメチル硫酸塩	—	目の調節機能を改善する。
c	ケトチフェンフマル酸塩	—	目の痒み <sup>かゆ</sup> を和らげる。
d	プラノプロフェン	—	眼粘膜の組織修復を促す。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 48

外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 酸化亜鉛は、患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用を示す。
- 2 サリチル酸メチルは、皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促す効果がある。
- 3 ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中 0.025mg を超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- 4 医療用医薬品の有効成分であるチアプロフェン酸を含有する医薬品でアレルギー症状（発疹<sup>しん</sup>・発赤<sup>かゆ</sup>、痒み、かぶれ等）を起こしたことがある人については、ケトプロフェンの使用を避けることとされている。

問 49

外皮用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a フェルビナクには、殺菌作用があり、皮膚感染症に効果があるため、みずむし、たむし等又は化膿<sup>のう</sup>している患部への使用が適している。
- b デキサメタゾン<sup>かゆ</sup>は、外用の場合、末梢組織（患部局所）における炎症を抑える作用を示し、特に、痒みや発赤などの皮膚症状を抑えるステロイド性抗炎症成分である。
- c インドメタシンを主薬とする外皮用薬は、小児への使用について有効性・安全性が確認されており、11歳未満の小児にも使用できる。
- d ウフェナマートは、炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 50

抗真菌作用を有する外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏<sup>こう</sup>が適すとされる。
- b ブテナフィン塩酸塩は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
- c 湿疹<sup>しん</sup>か皮膚糸状菌による皮膚感染かはっきりしない場合、抗真菌成分が配合された医薬品を使用することが適当である。
- d 生薬成分であるモクキンピ（アオイ科のムクゲの幹皮を基原とする生薬）のエキスは、皮膚糸状菌の増殖を抑える作用を期待して用いられる。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 51

毛髪用薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヒノキチオールは、ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- b カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）において抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- c 女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して、女性ホルモン成分の一種であるエストラジオール安息香酸エステルが配合されている場合がある。
- d カシウは、ウコギ科の植物を基原とした生薬で、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 52

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)				(配合目的)
a	イソプロピルメチルフェノール	—	歯肉溝での細菌の繁殖を抑える。		
b	グリチルリチン酸二カリウム	—	歯周組織の炎症を和らげる。		
c	アラントイン	—	炎症を起こした歯周組織の修復を促す。		
d	チモール	—	歯の齲蝕（むし歯）により露出した知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。		

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 53

ニコチン及びニコチンを有効成分とする禁煙補助剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ニコチン置換療法は、喫煙を継続しながら徐々に禁煙補助剤に換えていく方法で、離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- b インスリン製剤を使用している人は、ニコチンがインスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがあるため、禁煙補助剤を使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬を調剤した薬剤師に相談するなどの対応が必要である。
- c 妊婦又は妊娠していると思われる女性、母乳を与える女性では、禁煙することが推奨されるので、禁煙補助剤を積極的に使用することが望ましい。
- d 咀嚼剤を嚙むことにより放出されたニコチンは、主に口腔粘膜から吸収されて循環血液中心に移行する。

- 1 (a、c)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (a、d)

問 54

滋養強壮保健薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)				(配合目的)
a	チアミン硝化物				— 軟骨成分の形成及び修復
b	アスコルビン酸ナトリウム				— 歯ぐきからの出血・鼻血の予防
c	トコフェロールコハク酸エステル				— 手足のしびれ・冷えの症状の緩和
d	リボフラビン酪酸エステル				— 目の充血、目の痒みの症状の緩和

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 55

ビタミンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB 1は、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b ビタミンB 6は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- c ビタミンB 12は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- d ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 56

一般用医薬品として使用される漢方処方製剤・生薬製剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 漢方処方製剤を利用する場合、患者の「証」（体質及び症状）に合わない漢方処方が選択されたとしても、副作用を生じにくいとされる。
- b 生薬製剤に使用される生薬は、薬用部位とその他の部位、又は類似した基原植物を取り違えると、人体に有害な作用を引き起こすことがある。
- c 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合は、生後3ヶ月未満の乳児に使用しても問題ない。
- d 漢方処方製剤の使用により、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることがある。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 57

生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙<sup>けい</sup>等の作用を期待して用いられる。
- b ブシは生のままでは毒性が高いことから、その毒性を減らし有用な作用を保持する処理を施して使用される。
- c サンザシは、健胃、消化促進等の作用を期待して用いられる。
- d モクツウは、強壯、強精（性機能の亢進<sup>こうしん</sup>）等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 58

感染症の防止及び消毒薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 滅菌は生存する微生物の数を減らすために行われる処置であり、また殺菌・消毒は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することである。
- b 日本薬局方に収載されているクレゾール石ケン液は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- c トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、有機物の影響を受けにくいので、使用前に殺菌消毒の対象物を洗浄しなくても十分な効果を示す。

- 1 (a、b)      2 (b、c)      3 (c、d)      4 (a、d)

問 59

衛生害虫と殺虫剤・忌避剤及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ハエ（イエバエ、センチクバエ等）は、赤痢菌、チフス菌、コレラ菌等の病原菌を媒介する。
- 2 忌避剤は人体に直接使用され、蚊、ツツガムシ、ノミ等が人体に取り付いて吸血したり、病原細菌等を媒介するのを防止することに加え、虫さされによる痒みや腫れなどの症状を和らげる効果もある。
- 3 シラミの防除には、医薬品による方法以外に、散髪や洗髪、入浴による除去、衣服の熱湯処理などの物理的方法もある。
- 4 ペルメトリンは、除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。

問 60

一般用検査薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されるものを体外診断用医薬品という。
- 2 尿タンパク検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とする。
- 3 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- 4 対象とする生体物質を特異的に検出するよう設計されていることから、偽陰性・偽陽性を完全に排除することができる。